

## Support for **Woman Doctors**

～私からあなたへ～

### 「過去、現在、そして未来へ」

影向 一美 先生【新潟県 24期】

新潟県立新発田病院

お子さんは 11 歳、8 歳、6 歳の 3 人



新潟県 24 期卒業の影向一美です(旧姓 大嶋です)。このたびは、同期の小島華林先生からのバトンを受けて、リレーメンバーに加えていただきありがとうございました。

まずは懐かしい学生時代ですが、バスケットボール部、IMC(国際医療研究会)、ボランティアサークルに所属、時間があれば『駅前留学』に小山まで出かけ、帰りはテニスクラブと、学生寮にはまず、いない生活でした。

卒後の初期研修も学生時代同様に何でも首をつっこんで過ごし、内視鏡診療に魅せられて新潟大学消化器内科に入局、しかし義務年限中は一般内科として県立病院で勤務しました。卒後 3 年目に同期同県出身の夫と結婚し、卒後 5 年目に長女を出産しました。妊娠中より県内の自治医大の先輩、本学より診療応援をいただき、常勤医 3 人の病院でしたので大変心強く、また自治医大の繋がりを強く感じました。7 か月の育児休業後、上司であった新潟県 7 期布施克也先生の御提案により、現行の育児短時間勤務制度のモデルとなった年次有給休暇や育児休暇を組み合わせた就業時間短縮制度を利用し、実働一日 4 時間から段階的に復職しました。その際は、同僚の先生方の御理解、御協力のもと、夜間呼び出し、日当直勤務の免除など多大なご配慮をいただきました。

順調に勤務時間を延ばしていきましたが、子どもの発病、入院を機に、自分自身が体調を崩してしまい、長期入院、離職しました。入院中は気分も滅入ってしまい、『もう医者は無理かな』と先の見えないトンネルにいました。しかし義務年限というルールがあったお陰で、何とか復職し、長男、次女の出産を経ながら、遅れること卒後 12 年目に義務年限を終了しました。現在は消化器内科医として勤務医を何とか続けています。

気づけば卒後 17 年目?! 中身の伴わない自分に驚愕…の今日この頃ですが、自分の足跡を振り返ると、本当にあつという間で学生時代とは時間の流れ方が違うようです。ただ体調を崩した頃は、何か「～ねば」、「～べき」と自分で自分を追い込みすぎてはなかったかと思えます。仕事も家庭も完璧に…と。そして、目の前のことで精一杯、誰かに相談する時間も勿体無い、無論、地域医療推進課の HP を見るなんて考えも及ばない…。また『こんな事で相談したらどう思われるか』なんて評価を気にしたり、一人で悩む時間が多かったように思います。過ぎてしまえば、子ども達もちゃんと成長し、大変だった記憶も薄れていくようですが…。現在は母の助けも借りながら、手抜き、息抜きも覚えて、それなり、です。

でも、きっとこの先も悩みながらバタバタと歳をとっていくんだろうなあと思えます。

子どもが大きくなればなつたで、習い事、受験、思春期と家庭で悩み、職場では自分の力量不足、中途半端さに悩み、もがいていくんだろうなあ。

『継続は力なり』。続けていたらたやすい事も、少し離れると戻ることには臆病になったり、慎重になり過ぎたり、歳と共に新しい事への挑戦、フィールドを広げる事へのハードルは高くなって感じます。しかも、出産・育児中のキャリア不足を、自分の力不足をこの先どこでカバーできるのか、はたまたできないのか、それもわかりません。しかし、これまでいただいた御厚意へ今度は恩返しをする番と、今は徐々に業務を広げていこうとビビりながらも奮闘している毎日です。

悩むのは一生懸命考えているからこそ。答えが見つかるときもあれば、時が解決してくれる時もあります。結構、みんな同じ悩みを抱えているものです。先輩でも、同期でも、後輩でも、話してみると気が楽になり、意外に自分の中で答えが見つかるかもしれません。(幾つになってもおしゃべりは女子の必需品です! )。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『 Not alone, we' ll be on your side. 』